

橘 正一 著

方 言 學 概 論

育 英 書 院 版

自序

「方言學は、採集の堆積ばかりで、整理が殆ど出来てゐないぢやないか」といふ非難を耳にする事が時々ある。この非難は確に方言學の急所を衝くものである。方言書は三百冊の多きに上るとは言へ、その内容を見ると、十中九分九厘までは局地的の方言集であつて、全國的のものと云へば、徳川時代の「物類稱呼」と雜然たる「全國方言集」(静岡縣警察部)としか無い。農商務省又は農林省から、「狩獵鳥類の方言」、「鳥類の方言」、「日本樹木名方言集」、「樹種名方言集」などが出て居るが、これらは農業行政上の必要から、農林方面の専門家が、その方面の機關を通して蒐集し、編纂したもので、方言學者は之にあづからない。だから、是は方言學者の自慢にはならない。明治時代に、國語調査委員會から「口語法調査書」が出て居るが、今は絶版で容易に手に入り難い。「方言を研究するには、どんな本を読めばよいか」といふ質問に、満足の行く答を與へる事は、今日、不可能に近い。思ふに、方言學概論を求めて居る人は決して少なくはあるまい。それは専門家以上に、一般人に取つて必要なものである。菊澤季生さん

が「南島方言史攷」を評した文に、次の様な事が書いてある

體系的な概論を書く事は、簡単な様で最も難かしい、よくその學問の蘊奥を極めてからでないといふ出来ないものだと言はねばならない。それにも係らず、學問は結局一人二人の僅かな人々の努力だけでは大成出来ない事を思ふと、どの方面の研究に際しても、啓蒙的な、要領のよい概論が欲しいものだと思つて痛切に感じる。

琉球語やアイヌ語の研究に就ては、とりわけ此の感じを深くする。

私自身琉球語概論やアイヌ語概論の無いために、非常な不便を感じて居るから、この言には全く同感である。方言學の入門者にだけは、この不便な思をさせたくないと言ふのが本書を著した趣旨である。

さて著述に取りかかつてみて、概論を書くといふ事は容易ならぬ事だと氣が附いた。人は誰でも、得意の方面と不得意の方面とがある。雜誌に研究論文を發表するのであれば得意中の得意を深く掘り下げて行くのだから、書く人は愉快である。その代り、讀む方は流面を作つてゐる。所が、概論となると、得意不得意を問はず、まんべんなくやらなければならない。不得意の方面をやる事は、非常な克己忍耐を必要とす

必要とする。これが第二の困難である。

植物學概論などを見ると、それが多くの學說の綜合である事は、種々の人名索引を一見すれば判る。然るに、方言學概論の方は、遺憾ながら、人名索引を必要としない。なるほど、方言集の著者は多い。しかし、學說の提供者は極めて少ない。ただ、方言區劃論については、國語調査會、東條操氏、柳田國男氏、服部四郎氏、大原孝道氏、宇波耕策氏、石田春昭氏等が、或は肯定的に、或は否定的に、或は訂正的に、それぞれ、有力な資料と説とを提供して、學界を賑はして居る。日本の方言學界は、この方面に於て、最も多くの收穫を得たと言つてよい。私も方言區劃論のために、多くのページをさいた。

方言學は國語學の足らない部分を補ふ役目を持つてゐる。分業の利益は學問にもあるはずである。そこで、私は、先輩が詳しく説いた事は本書では簡に説き、先輩が簡に説いた事は本書では詳しく説き、以て重複を避ける様に心掛けた。たとへば、吾聲學は新しい學問ではあるが、今では單行本も十數種出て居り、吾聲學を學ぶに足大して不自由は無いはずである。だから、本書には、吾聲學の一般的事項は省き、ただ吾

自序
通の音聲學書に全く又は殆ど無い所の「二語折衷の法則」「訛音の心理」「子音轉置の例」の三つだけを詳しく説いた。他人の著書からの引用が本書に少ない事を咎めてはならない。

方言學概論

目録

第一章 序論	一
第二章 方言研究史	四
第一節 織田豊臣時代	四
第二節 徳川時代	五
第三節 明治時代	五
第四節 昭和時代	五
第三章 方言區劃論	六
第一節 單語の方言區劃	六
關東の部	六
東北の部	六
近畿の部	六
中國の部	六
四國の部	六
九州の部	六
第二節 文法の方言區劃	一〇六

第三節	アクセントの方言區劃	二五
第四章	琉球語と内地方言との比較	二六
第五章	八丈島方言の系統	二八
第六章	方言周圍論	二九
第七章	江戸辯に於ける京阪語の要素	二九
第八章	方言と外來語	二九
第一節	總論	二九
第二節	南蠻語	三〇
第三節	唐音語	三〇
第四節	朝鮮語	三一
第五節	梵語	三一
第六節	アイヌ語	三四
第九章	東北方言からアイヌ語へ	三四

第十章	幼な言葉	三五
第十一章	女房言葉	二六
第十二章	忌み言葉	二七
第一節	名詞篇	二七
第二節	動詞篇	三一
第十三章	二語折衷の法則	三一
第十四章	訛音の心理	三二
第十五章	子音轉置の例	三三
第十六章	方言誌論	三三
第十七章	方言矯正の原理	三三